

オーム社創業105周年企画

105<sup>th</sup>  
ANNIVERSARY

OHMでよみがえる 電気業界の歴史と電気技術者たちの軌跡

# 電気雑誌 OHM アーカイブ—1923(大正12)年版

A4判 / 820頁(予定) / 定価(本体100,000円+税) ISBN:978-4-274-50746-5



※イメージです。  
実際とは異なります

## 予約限定発売

### 予約締切:2019年

# 9月30日

2019年11月末発行予定

#### 『OHM』について

『OHM』は、東京帝国大学電気工学科を卒業した廣田精一と扇本眞吉等が1907(明治40)年に創設した電機学校(現、東京電機大学)で、電気工学の月刊専門雑誌として1914(大正3)年11月に誕生しました。以来、今日まで電気技術の最新情報をお届けしています。

#### 『OHM』アーカイブについて

雑誌創刊から105年という節目の年を迎える今年11月、これまで『OHM』に掲載した記事を集めたアーカイブ書籍第1弾を発売します。

記念すべき第1弾は、1923(大正12)年版です。1923年は関東大震災が発生した年で、9月1日の震災直後の10~12月号では、壊滅的な打撃を受け、機能を失った東京・横浜の被災直後の状況から電力設備を中心に復旧に向けた様子が当時のままの誌面でよみがえります。当時の被災した路面電車や各地の変電所、炎上した永代橋や東京通信局等の貴重な写真が掲載されています。

さらに、電力会社の登記や増資、社債発行や、官公庁・企業の人事、電気学会や照明学会、電気協会など各学協会の総会等の行事を詳細に掲載しており、当時の業界動向を知ることができます。

日本の電気技術の変遷を後世に伝え残すための貴重な資料になるのはもちろんのこと、過去の記事を通して電気事業への理解を深め、今後につなげるための参考書にもなる1冊です。



オーム社

〒101-8460 東京都千代田区神田錦町3-1  
TEL. 03-3233-0641(代表) FAX. 03-3233-3440  
<https://www.ohmsha.co.jp/>



# 電氣雑誌『OHM』アーカイブー1923(大正12)年版 主要目次

## 第一号(大正12年1月号)

- 154kV送電用碍子に就いて:近藤茂(大同電力)
- 学者の口から尊い学者の噂 伯父サン格のRyan教授を中心として:濫澤元治
- 米国電気化学会会長C.G.Schluederberg氏の来朝 電界両巨頭の会見
- 善美を尽くした電気の家 目白台に聳ゆる山本忠興博士の新居:傘裕生
- 希望の人生:田中龍夫(芝浦製作所)
- 技術の実行と論理:八木秀次(東北帝国大学)
- 労働能率の増進並びに節約:利根川守三郎(古河電気工業)
- 大正十一年に於ける電気試験所と其の将来:鳥潟右一(通信省電気試験所)
- 電気用雲母に就いて:宮川隆明(青柳研究所)
- 家庭電化と其の実験:伊藤奎二
- 負荷された直流発電機の試験
- 不平衡率測定器の発明
- 発電所凝汽器循環水吸引にサイフォンの利用:山田考(泉州織物)
- 鉄道電化に対する電力供給設備:吉原重成(鉄道省電気局)
- 自動信号機の使命:増永元也(鉄道省電気局)
- 鉄道電化実行:難波秀吉(鉄道省電気局)
- 鉄道省東海道線電化に使用さるる電気機関車に就いて
- 本邦電気鉄道会社一瞥
- 鉄道電化の進歩(英文及び其の抄訳) W.シュミット(シーベル・ヘグナー)
- アメリカに於いて利用されつつあるElectric Steam Boiler:堤勇(高田商会)
- 共振の図式説明
- 電気料金研究:森右作
- ホイト試験所及び附属貯水池:林安繁(日本電力)
- カーライルにて:井上昱太郎
- 工業上に於ける浪費問題:八田志津馬(松風工業)
- 電力と小工業/料理用ストーブ、タдон製造に電力、冷蔵用製氷機、莫大小機械 ほか
- 電熱界の革命

## 第二号(大正12年2月号)

- 市街の廃残物処分法に就きて:福田勝(神戸高等工業学校)
- 回転計針式或いは指針附電気計の電気容量の変化 [訳]三枝彦雄(東北帝国大学)
- 電気機械中の気流の原理に就いて [訳]中島友正(東京高等工業学校)
- 不平衡率測定器の発明
- 中欧電気の精華 映写宣伝に遅々本国から
- 風車発電に就いて
- 米国の新傾向
- 台湾電気興業株式会社天送坪発電所
- 新設東浜発電所:加藤森男(阪神電気鉄道)
- 周波計量器(Cycle Counter)に就いて
- 25サイクルから50サイクルへ:小澤吾吾(東京高等工業学校)
- 特務艦神威参観記:中島友正(東京高等工業学校)
- 大阪郊外電鉄一日平均収入月別比較
- 木曾川下り:高田勇次郎(電機学校)
- 負荷された直流発電機の試験
- 希望の人生:田中龍夫(芝浦製作所)
- 懸賞模擬試験/電気事業主任技術者資格検定試験
- 鉄道電化の進歩(英文及び其の抄訳):W.シュミット(シーベル・ヘグナー)
- 蓄電池式電気機関車(英国電気会社)
- 大同電力の臨時計画
- 経済時言/将に起らんとする農村の電氣化 松永安左工門(東邦電力)
- 学窓漫談:八木秀次
- 北海道電気事業一覽表

## 第三号(大正12年3月号)

- 直列式街路照明:土肥敏(東京電気)
- 廉価なる小単相誘導電動機
- 新設東浜発電所:加藤森男(阪神電気鉄道)
- 65 000kVAの大発電機:高田
- 本邦最初のダム式発電工事 宇治川電気会社第二期及び第四期工事
- カーチスタービン取扱注意事項:喜多市松(京阪電気鉄道)
- 鳥の集電化
- 誘導電動機の替替法:鈴木一郎(札幌通信局)
- 蓄電池充電用均圧器:田中博三郎(川北電気企業社)
- 鋳鉄の熱伝導率の温度に依る変化:宮川隆明(青柳研究所)
- 客車電灯に就いて:小野寺長(鉄道省電力課)
- 海外視察談:山本勇(東京高等工業学校)
- 石炭瓦斯の話:大友作之丞(東京高等工業学校)
- 最近無線電信電話の常識:福田爲造(東京高等工業学校)
- 帝都に新設された海軍の無電
- 電気料金研究:森右作
- 工業上の浪費問題:八田志津馬(松風工業)

## 第四号:特別倍大無線号(大正12年4月号)

- 無線界の鳥瞰:横山英太郎(通信省電気試験所)
- 現時の無線電信:佐伯美津留
- 無線電信と無線電話:中上豊吉
- 小型単相回転変流機
- 今様“淀の川瀬の水車”
- 無線電話放送実施に関する希望:山本勇(東京高等工業学校)
- 無線電話実施に面しての所感:真原勉(海軍省艦政本部)
- 誘導線輪又は蓄電器の実効抵抗測定上のBRIDGE METHODに就いて:H.V.Hieggitt
- 無線電信の利用:三宅福馬
- 工場と研究室:八木秀次(東北帝国大学)
- 数千の群眾に面して破天荒の無線結婚式
- 米國に行き初めて無線電話を聴く:松瀬勇雄(高田商会)
- 無線電話の普及に就いて:北村政次郎(通信省電気試験所)
- 鉄道と無線電話:増永元也(鉄道省電気局)
- 世界に例のない神戸の無線電話:小林宗一(日本海港無線電話)
- 無線電話機製造に就いて:加島斌(日華無線製造所)
- 西比利亞の無線電信:宮川隆明(青柳研究所)
- 音色の鮮やかに分る無線電話
- 東京日日新聞社の無線
- 無線漫語
- 無線電話と有線電話:高見基夫(日本電気)
- 放送無線:小島潔(日本無線電信電話)
- 指向無線電信と放送無線電話:丸毛登(茨木県平磯町電気試験所)
- 無線時代を迎へての回顧:松代松之助(日本電気)
- 無線電信用特別高周波発電機:丸山彦門(芝浦製作所)
- 無線電信及び電話用発電機に就いて:石山龍雄(明電舎)
- G.E.社製1kW無線電話発信機に就いて:竹山清(三井物産電気部)
- 樺北の無線電信 黒田氏カムチャッカ紀行より
- 亜留加里瓦斯填充検査用球:Hugh A.Brown, Chas.T.Kripp
- 熱電子電流に就いて:清田生
- 無線用検波器の発達と其の種類:木下生
- 本邦最初の写真送像機
- 無線電話取締令と有線電話の自動交換:堤勇(高田商会) ほか

## 第五号(大正12年5月号)

- 電気需要増加の趨勢に面して:小川梁次郎(東京市電気局)
- 廉価なる小型単相誘導電動機
- 直列式街路照明:土肥敏(東京電気)
- Corona放電に於ける瓦斯体の压力:宮川隆明(京大青柳研究所)
- 電気工学とエスペラント:竹内壽太郎(明電舎)
- 米国だより:工藤宗貞
- 自動弁避雷器の動作特性:A.L.Atherton(Westinghouse)
- 近頃奇抜な無線電話大学 比教授の預言
- 誘導電動機の替替法:鈴木一郎(札幌通信局)
- 電気鉄道用ヘリカル・ギヤーに就いて:岡本重郷(芝浦製作所)
- 新たに米国を見て:八巻彌一(信越電力)
- 苦学列伝/退職後は育英の事に従ふ飯内敬之助氏
- 真空球の動作に就いて:間野彦市(電機学校第二十九回卒業者)
- 京浜電力株式会社工事概要
- 大正十二年度電気事業主任技術者資格検定試験第一次試験問題並びに解答
- 模擬試験解答に就いて
- 電気協会第二回定時総会
- 大同電力大阪支所
- 大同電力会社、屋外変電所の鉄構
- 発明品博覧会電気方面瞥見
- 無線科学普及展覧会
- 電気協会総会第五回陳列会

## 第六号(大正12年6月号)

- 端西ツーリッヒより:太田原俊
- 再び蓄電池耐腐装置に就いて:鳥潟右一
- 黒部川及び其の水力:山田胖(東洋アルミナム)
- 黒部電気鉄道の沿線:大河内正己
- 電気鉄道用の回転変流機最近の発達に就いて:石山龍雄(明電舎)
- 自転車首燈用発電機
- 保安装置:古澤民雄(シーメンス、ハルスク電気会社)(Westinghouse)
- ウ社の盛況(其の一) 千五百萬弗の大口電化註文
- 最新演壇/機遇の変化に順応せよ:益田元亮(東京市電気局)
- 小型汽機直結発電機
- 一技に秀でよ:石川芳次郎(京都電灯)
- 努力の世の中:大屋敦(住友電線製造所)
- 経済な珍電気自動車
- ウ社の盛況(其の二) 5萬千口単筒蒸汽タービン
- 無電制御(Radio Control) Major Raymond Phillips
- 世界に於ける電力の消費量:藤田經定
- 軽便電灯
- 故障と失策/柱上注入開閉器に関する失策、罐水減少と可熔栓の除去から汽罐の大爆発
- 第二次懸賞模擬試験
- 過負荷容量大なる単相電動機
- 農村に於ける各種動力の運転費
- 斯うしてマルコニーは無線電信を発明した:横川新

## 第七号(大正12年7月号)

- 台湾に於ける電気事業:賀來佐賀太郎(台湾総督府)
- 台湾水力電気事業の趨勢 開發せらるべき水力四十萬馬力
- 台湾電気界の過去現在及び将来:藤井尾之太(元新竹電灯)
- 常夏の国の扇風機
- 工事所要年限
- 製塩と電気、西村二満(電磁商会)
- 門牌澤発電所工事
- 仏蘭西に於ける大送電連係計画:帆足第二郎(東邦電力)
- 無線受波強度の測定:吉田晴
- 東京市電の新線修理実況
- 保安装置:古澤民雄(シーメンス、ハルスク電気会社)
- 新型電流計 [訳]高田勇次郎(電機学校)
- 空中線の接地抵抗に就いて:小嶋昌三(東北帝国大学)
- 海外だより:井上昱太郎
- 整流子の火花を防ぐ妙案 [訳]宮井
- 第二種最大負荷制限器(電気学会懸賞当選第一等賞) 篠原若次郎(福岡県築豊商店)
- 電流制限器に就いて:井口亮造(阪神電鉄)
- 電気機関車に就いて:サー・ヴィンセント・エル・レーヴェン[訳]宮田幸家
- 三心入鉛被電線の許容電流に就いて:高木孝三(鉄道省電気局)
- 尾三電力時潮発電所取入口
- 時潮発電所水櫃と全景
- 雑組/農村電化 ほか
- 電気計器大阪試験所:廣田精一

## 第八号(大正12年8月号)

- 故鳥潟右一博士を悼む
- 二要素式多相力率計:高津清(通信省電気試験所)
- 無線界に於ける故鳥潟博士の貢献:横山英太郎(通信省電気試験所)
- 故鳥潟博士の電気材料方面に於ける業績:小川若三郎(通信省電気試験所)
- 象限電位計に就いて:神保成吉(通信省電気試験所)
- 鳥潟博士を悼む:北村政次郎(通信省電気試験所)
- 故鳥潟博士を偲ぶ:堀江貞治郎(通信省電気試験所)
- 故鳥潟博士と平磯出張所:丸毛登(通信省電気試験所)
- 鳥潟博士の思出:肥田丈夫(通信省電気試験所)
- 回転標準器に依る電気計器試験法の確度:田中貢(通信省電気試験所)
- X線に依る電気材料の試験:丹羽次郎(通信省電気試験所)
- 巨川を呑む怪物(表紙の説明)
- 工場生活滿三年を回顧して:赤坂東司(安中電機製作所)
- 蓄電池の放電回路を開く時に起る電池電圧変化に就いて:横尾榮(通信省電気試験所)
- 三十年後れている高梁鉄道:西勝造(東京市電気局)
- 保安装置:古澤民雄(シーメンス、ハルスク電気会社)
- 電気料金研究:森右作(東邦電力)
- 家庭用電動扇筒二種
- 無線用検波器の発達と其の種類:木下生
- 日本電力株式会社事業概観(附工事進捗程度)
- 送電線路鉄塔
- 懸賞模擬第二次試験成績発表(模擬試験問題並びに解答)

## 第九号(大正12年9月号)

- 入社辞:古賀廣治
- 二百万ボルトの人工的雷:古賀廣治
- 補償捲線を備ふる直流機械に就いて:鈴木一郎(札幌通信局電気課)
- 電撃に就いて:小澤吾吾(東京高等工業学校)
- 焼失せる東京通信局
- 自動洗砂池に就いて [訳]岡田藤重(日端貿易)
- ラ・フォース水力発電所
- 力率の改善に就いて [訳]蓮見孝雄(神戸高等工業学校)
- 世界最大の単相変圧器
- 夏期の無線放送
- カーチスタービン取扱注意事項:喜多市松(京阪電気鉄道)
- 支那石家荘紡績会社の発電所及び冷却用貯水池
- 輻射線の温度と遮蔽物の透熱度との関係:宮川隆明(京大青柳研究所)
- 仕様書から見たケーブル:伊藤義太郎
- 最近落成の宇治川電気吉野川第一発電所
- 事務室の照明に就いて:三谷光哉(内外電球)
- 自動靴洗装置
- 官公營と民營事業:丸山勝三(金剛山電鉄)
- 帝国電灯株式会社橋合発電所概要:吉野清(帝国電灯)
- 愚慧比べ 水冷変圧器冷却水量減少及び断水自動警報装置
- 故障と失策/10 000kV陸車の爆破
- 大正九年度世界電気事業の大勢と我国の現状
- 何も彼も総て是れ電気:青柳榮司(京都帝大)
- 特許局発表 発明だより

## 第十号(大正12年10月号)

- 大詔渙発
- 摂政宮殿下焼跡御巡視
- 震災当日の御座所赤坂離宮
- 焼失せる通信省
- 電気事業界救助策:關口壽(尾三電力)
- 焼失せる東京通信局
- 焼失せる東京市電有楽町変電所
- 震災と無線(安中電機と日本無線の活躍)
- 倒壊焼失せる東京電灯横浜住吉町変電所
- 海外に於ける電話技術の進歩と余の感想:道田貞治
- 紅蓮の炎に包まれた電気協会
- 焼失せる東京市の新式低床ボギー電車
- 天社倒れ電柱折れ
- 電気用特殊鋼と電気製鋼:川崎舍恒三(大同電気製鋼所)
- 焼失せる省線上海野町
- 電気回転機の基礎設計に就いて:武士逸二(大阪電灯)
- 焼失墜落せる永代橋電車線仮橋
- 巴里の綜合制住宅電気料金に就いて:帆足第二郎(東邦電力)
- 陸続相連りたるまま焼失せる東京市電車
- 倒潰せる東京電灯新小川町変電所
- 倒潰せる東京電気会社1)沙輪工場
- カーチスタービン取扱注意事項 喜多市松(京阪電鉄)
- 倒潰焼失せる東京下谷変電所
- 震災と鉄道(其の一)
- 三面六臂東京市電の活躍 被害の状況と応急置処:益田元亮(東京市電気局)
- 猛火有楽町方面に揚がる
- 震災と鉄道(其の二)
- 帝都大震災と電気通信被害と感想:鈴木壽傳次
- 震災と鉄道省:米澤政次郎(鉄道省震災調査部)
- 庶都行脚
- 惨めなる東京市電車の残骸
- 焼失せる神田橋
- 大正十二年度第二次筆記試験問題
- 銀座街頭に乱麻の如く垂れ下りたる架空線条
- 崩落せる京浜電鉄会社の線路
- 焼失せる通信官吏練習所
- 東京著名商店工場立退先

## 第十一号(大正12年11月号)

- 嗚呼スラインメッツ氏
- 帝都復興工事
- 大震災所感:濫澤元治(通信省電気局)
- 大震災火の名残り 帝都芝公園方面
- 帝都復興と電気事業 鯨井恒太郎(東京帝国大学)
- 大震災火の名残り 帝都浅草公園の一部
- 水道と通信との復旧に縁の下の力持を勉めた東電:岡部榮一(東京電灯)
- 震災の跡、横浜住吉町架線橋の惨状
- 電気復興縦談:松瀬勇雄(高田商会)
- 復興の聲、通信省仮舎にての電話交換局
- 震災と電気に関する所感:石山龍雄(明電舎)
- 震災火災時の日比谷交差点
- 震災火の名残り(芝区浜町町)
- 電気事業界救助策:關口壽(尾三電力)
- 物質の構造(抄訳)
- 飛行機上より、焼野原と化せる帝都本所深川方面を望む
- 埃及だより:扇本眞吉(電機学校)
- 水路の余水吐取崩し工事(谷村発電所)
- コットレル式電気取塵法
- 電熱利用に関する発明考案:中村透三(特許局電気課)
- 巴里に於ける綜合制住宅電気料金に就いて:帆足第二郎(東邦電力)
- 俄国だより:井上昱太郎
- カーチスタービン取扱注意事項:喜多市松(京阪電鉄)
- 庶都行脚
- 惨めなる東京市電車の残骸
- 端西アルムステグ水力発電所
- 判決例(会社の合併と株式割当の効力判決要旨)
- 憐れの姿を留めた柱上用変圧器
- 日本電気株式会社震災状況:石川弘三
- 大震災火の名残り(取り残されてる丸の内の一部)

## 第十二号(大正12年12月号)

- 鉄管ジョイントの離脱
- 小さき巨人スラインメッツ博士
- G.E.会社副社長Lovejoyの来朝(同社と共に古く、同社と共に新しい人)
- 沸蘭西の灯台
- ラヴジョイ氏の家族
- 帝都復興に対する私見を述べて 小辻技術家諸君の奮勵を望む:福田豊(東邦電力)
- 二十万ボルトの切断開閉器
- 端西アルムステグ送電線
- 灯明台の電灯
- 小学校の電化に就いて:小澤吾吾(東京高等工業学校)
- 顛倒した補助配電盤(鹿留発電所)
- 驚くべき無線の活用:扇本眞吉
- 物質の構造(抄訳)
- 太陽のエナジー:スラインメッツ
- 亀裂を生じた八澤発電所第五ブロック
- 水路の余水吐取崩し工事(谷村発電所)
- 起居二年全電化の家:保科貞
- 煉瓦建発電所の災害(鹿留発電所)
- 地じりてに亀裂を生じたる鉄管台(東電八ッ澤発電所)
- 判決例 甘肅法律事務所
- 震災画報 布設地盤沈下の為め損せる導水管(東電八ッ澤発電所)
- 震災画報 山崩れの為め埋れたる水路(東電八ッ澤発電所)
- 震災画報(堰堤大野貯水池)(東電八ッ橋発電所)
- 空運転のまま放任された水車(東電鹿留発電所)
- 電話も電灯も地下線に限る 震災の電話被害を調べた:森兵吾



# 電気雑誌『OHM』アーカイブ

## 1923(大正12)年版

～大正時代の日本の社会と電気事情が見えてくる～

1月号では蒸気鉄道の電化、2月号では不平衡率測定器の発明、3月号では国内初のダム式発電工事、4月号では無線電信と無線電話、5月号では発明品博覧会、6月号では黒部川水力発電、7月号では台湾の電気事業、8月号ではナイアガラ電力会社の発電機、9月号では200万Vの人工雷等を紹介しています。10～12月号では、関東大震災による壊滅的な打撃を受け、機能を失った東京・横浜の被災直後の状況や復旧の様子が臨場感のある取材写真とともに掲載されています。



大正モダンを感じる表紙



世相がわかる広告



当時の電気事情がわかる記事



海外事情も積極的に発信



関東大震災直後の記事



電気事業主任技術者試験(電験)の試験問題と解説

(書店にご注文ください)

書店名入番線印	<b>注文書 予約締切(2019年9月30日) 買切</b>		
	オーム社 〒101-8460 東京都千代田区神田錦町 3-1 TEL 03(3233)0534 FAX 03(3233)3440		
	電気雑誌『OHM』アーカイブ 1923(大正12)年版	定価(本体 100,000 円+税) ISBN 978-4-274-50746-5	注文部数 部
	お名前	勤務先	
	ご住所(ご自宅・勤務先住所)	連絡先(TEL)	

買切

※書店様へ。本書は予約限定買切商品です。発行は2019年11月末を予定しています。